

7

知的障がいについて

発達時期において脳に何らかの障がいが生じたため、知的な能力が年齢相応でなく、社会生活への適応のしにくさがあります。

話の内容をうまく理解できなかったり、自分の考えや気持ちを表現することが難しい人もいます。また、一つの行動に執着したり、同じ質問を繰り返す場合もあります。

障がいの程度は軽度から重度までさまざま、一人で行動できる人もいれば、理解や判断を助ける支援者と行動をともにしている人もいます。

事

例15 飛行機で

私の子どもには知的障がいがあります。先日、子どもを連れてはじめて飛行機に乗りましたが、慣れない機内で落ち着きをなくし、大声で叫び出してしまいました。客室乗務員の方々は親切に対応してくださいましたが、周囲の乗客の冷ややかな視線がつかうかったです。

こ

んな配慮をお願いします

知的障がいのある人の中には、状況の変化に対応できず、「びっくりかえる」、「泣きわめく」、「飛び跳ねる」などのパニック行動が起きることがあります。そのような時は本人が落ち着ける場所で過ごすことが必要です。落ち着くための方法、落ち着ける場所はその人それぞれで違います。周囲の人は過度に反応せず、温かい目で見守りましょう。

事

例16 対人関係で

私には知的障がいがあります。難しい話は苦手ですが、時間をかければ理解できます。ゆっくり話してもらうのは助かりますが、子どもに話しかけるような口調はやめてほしいです。

こ

んな配慮をお願いします

知的障がいのある人に話しかける際は、内容を理解しているかどうかを確認しながら、できるだけ短い文章でゆっくり、繰り返し説明するようにしてください。知的障がいがあるからといって、幼い子どもに接するように対応するのではなく、その人の年齢に応じた対応をしましょう。

